

高松市・トゥール市姉妹都市提携30周年記念 市民親善訪問団報告書

平成30年7月10日(火)～7月17日(火) 8日間



Takamatsu International Association

公益
財団
法人

高松市国際交流協会



目次

1	日程表	1
2	トゥール市の概要	2
3	両市親善交流のあゆみ	3
4	フォトギャラリー	4
5	訪問団活動状況	6
6	感想文	12


高松市・トゥール市姉妹都市提携 30 周年記念市民親善訪問団 日程表

日 付	場 所	現地時間	交通機関	内 容
7月10日(火)	高松発 関西空港着 関西空港発 アムステルダム空港着 アムステルダム空港発 ストラスブル国際空港着	5:00 9:00 10:25 15:00 16:35 17:45	専用バス — KL-868 — AF-1337 専用バス	— — KLM オランダ航空 — エールフランス航空 宿泊先のホテルへ移動
7月11日(水)	ストラスブル旧市街 ストラスブル駅発 パリ着	8:30 14:47 16:35 20:00	徒歩 TGV 専用バス クルーズ船	ストラスブル旧市街観光 パリへ移動 パリ市内を観光 セーヌ河ディナークルーズ
7月12日(木)	パリ発 モンサンミッシェル着 モンサンミッシェル発 パリ着	7:30 11:30 16:00 22:30	専用バス	モンサンミッシェルへ移動 モンサンミッシェルを見学 宿泊先のホテルに到着
7月13日(金)	パリ発 トゥール着 トゥール バルザック島 トゥール市役所	8:30 12:00 13:00 16:00 19:00	専用バス	トゥール市へ移動 トゥール市内で昼食 トゥール旧市街などを見学 ブドウ苗木の記念植樹 姉妹都市提携 30 周年記念夕食会
7月14日(土)	トゥール クロ・リュセ城 La cave aux Fouées アンボワーズ城 ジャン・ジョレス広場 トゥール市役所	9:00 10:30 12:00 14:00 19:30 20:30	専用バス	クロ・リュセ城へ移動 クロ・リュセ城見学 洞窟レストランで昼食 アンボワーズ城見学 軍事パレード見学 カクテルパーティ
7月15日(日)	トゥール ヴィランドリー城 ヴィランドリー城発 パリ着	8:30 9:30 12:00 13:00 15:00 18:00	専用バス	ヴィランドリー城へ移動 ヴィランドリー城見学 昼食 交流ワークショップ パリへ出発 宿泊先のホテルに到着
7月16日(月)	パリ発 シャルル・ド・ゴール空港発 アムステルダム空港着 アムステルダム空港発	8:30 11:45 13:00 14:40	専用バス AF-1640 KL-867	シャルル・ド・ゴール空港へ移動 エールフランス航空 KLM オランダ航空
7月17日(火)	関西空港着 関西空港発 高松着	8:35 9:30 13:00	専用バス	—


トゥール市の概要



トゥール市はアンドル・エ・ロワール県の県庁所在地であり、人口約 14 万人、パリの南西約 235 km に位置し、トゥーレーヌ地方の中心都市で「フランスの庭」と呼ばれています。パリから TGV（高速鉄道）で約 1 時間の所にあり、フランスの四大河川のひとつ、ロワール川とその支流シェール川に囲まれた北フランスの中では、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた美しい都市です。15 世紀から 16 世紀まで、フランスの首都として重要な役割を果たしたトゥール市は「芸術と歴史の街」の称号が与えられています。




中世以来の歴史的遺産が保存されており、トゥール市内にあるロワール渓谷の景色は、生きた文化的風景としては、フランスで最も広大な世界遺産です。かつて、国王や芸術家などの歴史上の人物達がロワール川に魅せられ、その川岸に城を建て住んでいました。現在では、その美しい古城を巡るために大勢の観光客が訪れます。



オルセー美術館を設計したトゥール出身の建築家、ヴィクトール・ラルーによってデザインされた市庁舎は、中世の大聖堂のように荘厳で外見もさることながら、内装も石造りの階段や豪華な装飾が施されており、一部の施設はレセプション、結婚式、又は展示会等にも使われています。市庁舎が街のシンボルとなっています。

トゥール市の旧市街地には、遺跡が住宅地に残っていたり、木組みや石造りの家屋が建ち並び、中世の雰囲気を感じることができます。旧市街地の中心にあるプリュムロー広場には、カフェやレストランがあり、たくさんの人が集い賑わっています。

トゥール市のランドマークでもあるゴシック様式の傑作サン・ガシアン大聖堂は、長い年月を経て建てられ、1862 年に文化遺産に指定されました。



2013 年には大規模都市計画の一部としてトラムが開通し、モダンなデザインや架線レス集電を採用しています。早朝から深夜まで運行しており、トゥール市民や観光客の足となっています。

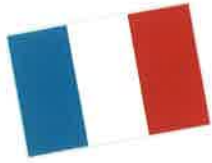
ロワール川に続く、市街地のメインストリートであるナショナル通りの周辺では、観光と商業の新しい文化地区を作る開発プロジェクトが始まっています。

近年では機械金属工業やエネルギー効果の研究など、近代都市としての発展も目覚ましく、伝統文化との調和のとれた都市としてさらなる発展を遂げています。

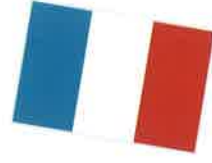
高松市・トゥール市親善交流のあゆみ

年度	西 暦	交流事業など
昭和 63	1988	・調印式：6月3日（トゥール市）、10月21日（高松市）
平成 2	1990	・トゥール市公式訪問団が高松市の姉妹・友好都市フェアに出席、物産を出展（市制施行 100 周年記念） ・高松市公式訪問団がトゥールフェアに出席、物産を出展 ・中学生海外親善訪問団派遣、青年海外親善訪問団派遣
平成 3	1991	・市民海外親善訪問団派遣
平成 4	1992	・高松市で姉妹・友好都市写真展 高松市公式訪問団派遣
平成 5 [5周年]	1993	・トゥール市公式訪問団が高松市訪問
平成 6	1994	・高松市でトゥール市美術館展 ・トゥール市第 1 次行政研修生、トゥール市助役等が高松市訪問
平成 7	1995	・トゥール市庁舎で生け花展 ・トゥール市第 2 次行政研修生が高松市訪問 ・トゥール市長にジャン・ジェルマン氏就任
平成 10 [10周年]	1998	・高松市でトゥール市写真展、フランス宮廷音楽合奏団公演、フランス理解サロン ・トゥール市庁舎で生け花展
平成 13	2001	・高松市でロワールワインの夕べ
平成 15 [15周年]	2003	・高松市でトゥール市写真展、日仏交流アート展 ・市議会ヨーロッパ視察団がトゥール市訪問 ・トゥール市で桜の記念植樹、「高松庭園」開園、トゥール市庁舎で生け花展
平成 16	2004	・サンポート高松で記念植樹、記念プレート設置 ・穴吹ビューティカレッジとトゥーレーヌエステティック学院との相互交流開始
平成 18	2006	・市議会海外視察団がトゥール市訪問 ・トゥール市助役、マルムティエ高校訪問団が高松市訪問 ・学校法人穴吹学園とトゥーレーヌエステティック学院が姉妹校提携
平成 19	2007	・高松市公式訪問団がトゥールフェアに出席、物産を出展
平成 20 [20周年]	2008	・高松市公式訪問団が 20 周年記念行事（トゥール市）、第 1 回日仏自治体交流会議（ナンシー市）に出席 ・市民親善訪問団がトゥール市訪問 ・トゥール市で生け花展 ・トゥール市公式訪問団が 20 周年記念式典（高松市）に出席、記念植樹
平成 21	2009	・トゥール市在住のチーズ熟成士ロドルフ・ルムニエ氏による高松市の小学校での食育講習会
平成 22	2010	・トゥール市公式訪問団が第 2 回日仏自治体交流会議（金沢市）に出席、高松市訪問 ・チーズ熟成士ロドルフ・ルムニエ氏が高松市の小学校で給食体験、ルムニエ氏が熟成したチーズのテイスティング
平成 23	2011	・ボナペティ事業（両市の小学校で野菜の種を交換し、育て、収穫し、調理する食育交流）
平成 24	2012	・青少年親善研修生派遣開始 ・トゥール市劇団が高松市訪問 ・高松市公式訪問団がトゥール市訪問、第 3 回日仏自治体交流会議（シャルトル市）に出席 ・高松市で「フランス トゥール市 こどもツアー」
平成 25 [25周年]	2013	・トゥール市で 25 周年記念春のまつり ・高松市でフレンチウィーク開催 ・トゥール市公式訪問団が第 4 回日仏自治体交流会議合同推進委員会、25 周年記念式典（高松市）に出席
平成 26	2014	・トゥール市長にセルジュ・ババリ氏就任 ・トゥール市公式訪問団が第 4 回日仏自治体交流会議（高松市）に出席
平成 27	2015	・香川高等専門学校がトゥール大学と学術交流協定締結 ・高松市公式訪問団が第 5 回日仏自治体交流会議合同推進委員会（トゥール市）に出席 ・伝統工芸職人チーム「TAKUMIKUMO（匠雲）」がトゥール市を訪問
平成 28	2016	・トゥール大学プロフ技術短期大学部国際交流室長が副市長表敬訪問 ・高松市公式訪問団が第 5 回日仏自治体交流会議（トゥール市）に出席 ・玉藻公園・ヴィランドリー城・トゥール市 3 庭園連携協定締結
平成 29	2017	・トゥール大学技術短期大学部学生が市長表敬訪問 ・トゥール市長にクリストフ・ブシェ氏就任 ・玉藻公園・ヴィランドリー城・トゥール市 3 庭園連携協定締結 1 周年記念事業を両市で開催
平成 30 [30周年]	2018	・高松市公式訪問団、市民親善訪問団、伝統工芸職人チーム「TAKUMIKIMO（匠雲）」が 30 周年記念行事（トゥール市）に出席 ・高松市でフレンチマルシェ開催 ・トゥール市公式訪問団が第 5 回日仏自治体交流会議（熊本市）、30 周年記念式典（高松市）に出席

高松市・トゥール市姉妹都市提携30周年記念



市民親善訪問団
Photo Gallery



平成30年7月10日(火) - 7月17日(火)



パリ
Paris



ストラスブール
Strasbourg



モンサンミッシェル
Mont Saint-Michel





記念植樹



サン・ガシアン大聖堂
Cathédrale Saint-Gatien



スリュムロー広場
Place Plumereau



記念夕食会



アンボワーズ城
Château d'Amboise



軍事パレード



クロ・リュセ城
Château du Clos Lucé



調香ワークショップ



ヴィランドリー城
Château et Jardins Villandry



ヴィランドリー城で
交流ワークショップ

折紙ワークショップ



尺八演奏



市民親善訪問団活動状況

7月10日(火) 【高松－アムステルダム－ストラスブール】

早朝のため、まだ湿度がそれほどなく、天気は快晴。市民親善訪問団30名を乗せた専用バスは一路高松から関西空港へ。今から始まる旅に心躍らせている気持ちを表すかのように、車内は明るい雰囲気で充満していました。しかし、神戸近郊で事故のため大渋滞に巻き込まれる事態に。一時は飛行機に搭乗できるのかと不安も過りましたが、運転手の方の素早い適切な判断で渋滞を回避し、無事に関西空港へ到着。搭乗手続きを済ませ、約12時間のフライトの後に到着したのは、オランダ、アムステルダム・スキポール空港。空港内で売られているオランダならではの木靴やチューリップの



ストラスブール空港

球根、チーズなどを横目に見ながら、足早に乗り換えし、いよいよフランス、ストラスブール空港に到着しました。フランスに着いて一安心、長旅だったと実感する暇もなく、専用バスに乗って宿泊先のホテルへ移動。チェックインした後、夕食を取るためレストランへ。ちょっとした散策となりました。行く途中には大きな市街壁画がいくつかあり、目を惹きます。日本であればもう日が落ちてきている時間ですが、日差しが眩しいくらい、まだ明るいことに驚きました。モダンなデザイン



目を惹く市街壁画

が印象的なストラスブール駅前にあるレストランで、初めての夕食となりました。食事はタルトフランベ、お魚のメインに、ストラスブールで有名なお菓子クグロフ型のアイスクリームでした。この日はワールドカップ準決勝戦、フランス対ベルギー戦が開催されていました。フランスがベルギーに1対0で勝利し、テレビを観ていたレストランのお客や店員までもが大興奮。夜は夜で、勝利を祝う車のクラクションが鳴り続き、長旅で疲れた私達訪問団の絶好の子守歌となったのでした。

7月11日(水) 【ストラスブール－パリ】

今日も快晴、朝の空気が気持ちよく、昨日の長旅の疲れも忘れてしまう程でした。清々しい天気の中、外のテラスで朝食を取る方も。朝食後は、日本人ガイドの方の案内でストラスブール旧市街散策へ、ルイ川沿いを歩きました。ヴォーバン・ダムトンネルを抜け、階段を上り高台へ。クヴェール橋を一望することができ、ストラスブールの美しい風景が広がっていました。街には色とりどりの花が至る所に咲いており、街並みの可愛らしさを強調していました。「プティット・フランス」と呼ばれるフランスとドイツの文化が融合し



テラスで朝食を



プティット・フランス

た、この地方独特の白い壁とこげ茶色の梁のコントラストが美しい木組み建築が至る所で見られ、街並みに魅了されました。ルイ川の支流沿いには絵本に出てきそうな家々や、旧市街にはお菓子屋や雑貨屋など可愛らしいお店が建ち並び、トラムも走っていました。グーテンベルグ広場を抜け、いよいよストラスブール観光のもう一つの目玉、ノートルダム大聖堂へ。タイムスリップしたかと思うほど歴史を感じさせる大聖堂が、私達を出迎えてくれました。400年以上も年月を費やして完

成したゴシック建築の代表格とも言われている大聖堂は、142 mの高さがあり荘厳に佇んでいます。正面入口に施された緻密な彫刻は、圧巻でした。大聖堂の中に入ると素晴らしいステンドグラスが目に飛び込んできます。神聖な雰囲気漂う室内には、子供から老人までの一生を表した人形が動く有名な天文時計があり、多くの観光客が見学していました。展望台からの光景を見ようと、訪問団員の中には332段の階段を登って、大聖堂の屋上から素晴らしい眺望を楽しむ方もいました。大聖堂の周りの店ではストラスブール市の鳥、コウノトリのお土産がたくさん売られていました。自由行動の後、レストランへ移動。昼食にはザワークラフトとベーコン、ソーセージ、じゃがいもの入ったアルザス地方の郷土料理、シュークルート・ガルコをいただきました。後ろ髪を引かれる思いで旧市街散策を終えた後は、一旦ホテルに戻り、バスでストラス



ノートルダム大聖堂



ストラスブール中央駅

ブール中央駅へ。TGV（高速鉄道）でパリへ向います。スーツケースを持って駅の構内を右往左往、TGVに乗り込み、ようやく出発と思いきや、突然の停電で出発が遅れるという事態に。フランス語のアナウンスのみで状況も把握出来ず気もそぞろでしたが、1時間半程の遅れで出発となり、ようやくTGVが動きだしました。車窓からの風景が、のどかな田園風景から都市の風景に変わりパリに到着。専用バスに乗り込み、コンコルド広場やマドレーヌ寺院などをバスでぐるりと観光しました。パリの街は7月14日の革命記念日の記念式典一色で、あちらこちらに国旗が掲げられ、式典用の椅子が街路に並べられていました。バスはシャンゼリゼ通りに到着。TGVの到着遅延で時間が限られていましたが、凱旋門を背景に写真を撮って、賑やかなシャンゼリゼ通りの雰囲気を楽しみました。その後、セーヌ川ディナークルーズへ出発し、船着き場に到着。世界各国からの観光客を乗せた大型バスが並んでおり、クルーズ船は様々な国籍のお客でほぼ満席でした。船内では歌手が交代しながら素敵な歌を披露し、さらに場の雰囲気を盛り上げていました。20時半からのスタートでしたが、外はまだ明るく、暫くは食事を楽しみました。どのテーブルも賑やかで、イタリアからの団体の方達が歌を歌い始めました。ここで、私達も日本文化を紹介しようと、訪問団の方の音頭で三本締めをしました。三本締めの迫りにイタリ



パリに到着



セーヌ川ディナークルーズ

アの皆さんは大興奮。言葉ではなく互いの文化で、楽しい異文化交流ができたことが印象的でした。徐々に日が暮れてきました。朱色を帯びた穏やかな紫陽花色の夕暮れにライトアップしたオルセー美術館やノートルダム大聖堂など、パリの美しい街並みが映し出されていきます。船内では国籍関係なく、みんなが一緒に踊ったり、歌を歌ったりと大盛り上がりの中、クルーズ船は帰着、ライトアップされた黄金色のエッフェル塔が出迎えてくれました。バスでホテルに戻ったのは、既に23時半、訪問団のみなさんは終日の観光で疲れていましたが、とても充実した表情をしていました。

7月12日(木) 【モンサンミッシェル】

フランス滞在3日目。早朝からパリのホテルを出発し、今日の訪問地モンサンミッシェルへ。往復約700kmのバスの旅の始まりです。車窓からは広大に続く大地に作物や果樹がなる様子を見ることができ、農業大国、フランスを

実感しました。その様子はさながら色とりどりのパッチワークの様でした。途中休憩を挟みながら、お昼頃に到着。モンサンミッシェルに行く前にレストランで昼食をとりました。名物のオムレツや、リンゴで有名なノルマンディー地方ならではのシードル（発泡酒）やリンゴのタルトなどをいただきました。昼食の後は専用シャトルバスに乗ってモンサンミッシェルへ。車内は、すし詰め状態で身動きが取れない程でした。そして、いよいよ湾上に浮かぶ修道院モンサンミッシェルに到着。間近にそびえる世界遺産を前に不思議な世界観に引き込まれそうな気持ちになりました。修道院へ続く参道は、たくさんの観光客で賑



世界遺産モンサンミッシェル



修道院内の美しい回廊

わっていました。参道を通り抜けて修道院の頂点に立つ大聖堂へ。ここから階段をずんずんと登っていきます。大聖堂に到着すると、そこから大パノラマでモンサンミッシェルを囲む湾を一望することができ、訪問団のみなさんは立ち止まってその眺望を楽しみました。ガイドの方の説明を聞きながら、大聖堂や修道院内の素晴らしい回廊や食堂、青いライトが幻想的な聖マルタン礼拝堂などを見学しました。モンサンミッシェルを堪能した後は、一路パリへと戻ります。その途中小さな町に立ち寄り、夕食となりました。ハムやチーズが入ったそば粉のクレープ（ガレット）、デザートにはノルマンディー地方名産のミルクジャムを添えたクレープなど、フランスらしいクレープ三味の夕食を堪能しました。



本場のガレット

7月13日(金) 【トゥール市滞在 1 日目】

朝、パリのホテルを出発し、いよいよ姉妹都市トゥール市へ。今日からは、日本語が堪能で、日本文化にも造詣の深いフランス人ガイドのペリエヌさんが合流しました。1 時間半程バスに乗り、トゥール市へ到着。私達訪問団を迎えてくれたのはオルセー美術館を手掛けたトゥール市出身の建築家、ヴィクトール・ラルーによってデザインされた



街のシンボルトゥール市役所

美しいトゥール市役所でした。まずは市役所近くのレストランで昼食を取り、ペリエヌさんのガイドで旧市街見学へ。歴史を感じる木組みや石造りの古い建物の間を歩いていきます。住宅地の中にある遺跡を見学した後は、旧市街のシンボルであるブリュムロー広場に到着。広場にあるオープンカフェやレストランは、たくさんの人で賑わっています。木組みの古い建物が広場を囲い、中世の雰囲気を感じることができました。旧市街では、歴史的情緒を感じ、市役所の近辺ではトラムが走り、商業施設も建ち並ぶなど、トゥール市はコンパクトでありながらも、古いものと新しいものが上手く融合した都市だと感じました。その後移動し、サンガシアン大聖堂へ。トゥール市中心部にそびえ立つ大聖堂は、1160 年から 1547 年までの長い年月を掛けて建てられ、ゴシック様式の代表とも言われています。荘厳な雰囲気のある室内には、美しい色合で繊細に描かれたステンドグラスが両脇に広がり、自然と惹きつけられます。太陽の光がステンドグラスを照らし、幻想的な空間をもたらしていました。また



荘厳なサンガシアン大聖堂



ヴーヴレワインのおもてなし

大きなパイプオルガンもあり、神聖な気分を味わいました。大聖堂を後にし、次は公式行事である記念植樹が行われるバルザック島へ移動。バルザック島とは言うものの、島ではなく広大な公園のような場所で、抜けるような青空とブドウ畑の緑のコントラストが美しく、既に会場にはトゥール市民の方が集まっていました。ブドウ畑にはフランスと日本の国旗が飾られており、式典の雰囲気を盛り上げます。このまま溶けてしまうのではないかと思うほどの強い日差しの中、式典が行われ、トゥール市民や訪問団が見守る中、ブドウの苗木が記念植樹されました。その後、トゥール市が用意してくださった、地

元ロワール地方のヴーヴレワインが振舞われ、景色と同じような清々しい味を堪能しました。息つく暇もなく、続いてトゥール市役所へ移動。トゥール市主催の記念夕食会に出席しました。市役所の中とは思えない程の豪華な内装の婚礼の間で行われ、トゥール市長、大西市長を始め、トゥール市職員や、日仏交流関係者、伝統工芸職人の「匠雲」、通訳の方が参加されました。両市長の挨拶や記念品贈呈が行われ、市民親善訪問団からは、岩佐佛喜堂のお香が川のように流れる流川香、香川日仏協会からは、おいでまいTシャツなどが贈呈されました。各席には、トゥール市からヤギのチーズのクッキーなどの地元名産品のプレゼントが用意されており、おもてなしの心遣いを嬉しく感じました。優雅な雰囲気の中、各テーブルで楽しく交流し、賑やかな声が絶えない夕食会となりました。



記念夕食会

7月14日(土) 【トゥール市滞在 2 日目】

天気が訪問団を後押しするかのように、本日も抜けるような青空。宿泊しているトゥール市のホテルからバスでクロ・リュセ城へ。行く途中で以前、高松市国際交流員として高松市役所で働いていたジュリアさんが合流。懐かしい再会にバスの雰囲気がさらに明るくなりました。クロ・リュセ城はレオナルド・ダ・ヴィンチが晩年を過ごした城として有名です。こじんまりとした可愛らしい趣の印象を受けました。城内には、レオナルド・ダ・ヴィンチの寝室や仕事部屋、ルネッサンス期様式の大広間があり、回廊からは美しい庭を見ることもできました。レオナルド・ダ・ヴィンチが生前、ここで生活し、発明品を製作していたかと思うと、一步歴史に踏み入れたような、不思議な気持ちになりました。城の前に広がる庭は、小さな森のようで、桜色のレンガ造りの城とのコントラストで、より一層緑が際立って見えました。クロ・リュセ城見学の後は、洞窟の中にあるレストランへ。洞内はひんやりとしていて、中は想像以上に広々としていました。トゥール市副市長を始め、関



クロ・リュセ城内を見学



洞窟レストラン

係者などが揃っての昼食会となりました。食事はトゥール市で有名なリエットと呼ばれる豚肉のパテや、石窯焼きのパン、栗のリキュールなど、郷土食豊かな内容でした。昼食後は歴代の国王が過ごしたアンボワーズ城へ。アンボワーズ城までの道のりには、土産物屋や市場などのお店が立ち並んでおり、多くの人で賑わっていました。城内に入ると、フランスで初めて採用されたイタリア式の庭が広がっており、青空と、城の白と、庭の緑の調和が美しく、一枚の絵画のようでした。まず、敷地内にあるサン・ユベール教会堂へ案内され、関係者からの挨拶がありました。その後は、ガイドの方の案内のもと、城内

を見学し、ゴシック様式とルネッサンス様式が取り入れられた美しい装飾や歴史を感じるタペストリーなどが、至るところで見られました。高台にそびえるアンボワーズ城の屋上から見渡す、世界遺産のロワール渓谷の壮大な景色が印象的でした。アンボワーズ城を後にし、トゥール市役所前のジャン・ジョレス広場へ。フランス革命記念日のため、厳しい交通規制や警備が敷かれていました。広場にはパリの時と同様に、青・白・赤のトリコロールの旗があちこちに飾られ、祝賀ムード一色。トゥール市が用意してくださった席で、軍事パレードを見学することができました。厳かな雰囲気の中、式は粛々と行わ



アンボワーズ城



フランス革命記念日の軍事パレード

れ、式の後半では、軍用機が空を飛び、軍隊行進の後に続いて、軍用車両や消防車、救急車などがパレードしました。普段見ることのできない経験ができ、良い思い出となりました。軍事パレードの後に花火鑑賞を予定していましたが、交通機関の規制もあり、残念ながら見学はキャンセルとなりました。終日、タイトスケジュールでの公式行事参加でしたが、様々な体験や美しい景色や建造物を見学し、疲労感よりも有意義な時間を過ごせた満足感を感じられているように思えました。

7月15日(日)

【トゥール市滞在3日目】

本日も見事に快晴。トゥール市での滞在最終日となりました。この日は玉藻公園と歴史的庭園連携協定を結んでいるヴィランドリー城見学と、現地の方との交流ワークショップの開催です。宿泊先のホテルを出発し、1時間弱でヴィランドリー城へ到着。まずは、ヴィランドリー城主からの挨拶があり、その後、城主の案内で城内の見学となりました。ロワール川沿いにある城の中で、一番最後に建てられたヴィランドリー城の内装は、優しい印象のパステルカラーの壁を基調に、上品な調度品が配置され、少し現代的な印象を受けました。また、美術館を思わすほど、多くの絵画が飾られていまし



おとぎの国のような庭園



さながら美術館

た。幾何学模様の美しい庭園は、様々なテーマで造園され、迷路のような精密に剪定された緑と花々の色が、ルネッサンス様式の城と上手く調和しており、さながらおとぎの世界の中へ入り込んだ気分になります。その後、昼食を取り、ヴィランドリー城前の広場で交流ワークショップを開催しました。地元の方や国外からの観光客の方に、日本の伝統文化を体験しながら認識してもらおう内容です。伝統工芸職人チーム「匠雲」からは陶芸、漆芸、庵治石、和菓子などの実演が行われ、市民親善訪問団からは、調香ワークショップ、折り紙ワークショップ、尺八演奏と日本の歌の披露、茶道体験を開催しました。調香ワークショップでは、数種類のお香を組み合わせ、自分だけの香りを作ることができ、たくさんの方が参加されました。参加者は、お香について積極的に質問していて、日本のお香文化に興味を持っている様子でした。折り紙ワークショップでは、調香したお香を入れる可愛い袋を作ったり、大きな折り紙で兜などを作りました。世代を問わず、折り



茶道体験



日本の歌を大合唱

紙で何かを作ることに夢中になっていました。また尺八演奏では、「荒城の月」や「北国の春」などを披露。尺八の音色に足を止める方がたくさんいました。尺八の伴奏で訪問団のみなさんが、「上を向いて歩こう」やフランス民謡である「きらきら星」を英語で合唱し、会場の雰囲気さをさらに盛り上げました。茶道体験では、丁寧な指導のもと、参加者はお点前のひとつひとつの作法を、興味深く見ながら体験していました。また、訪問団の方が、高松から持参した日本のお菓子や紙風船や竹とんぼなどのおもちゃで、急遽体験コーナーを作り、子供達は初めて食べる日本の味や遊びを楽しんでいました。言

葉は互いに分からずとも、異文化交流を通じて、現地の方や他国の方と交流を図ることができ、有意義な時間となりました。ワークショップ終了後、ヴィランドリー城から一路パリへ戻ります。この日は、ワールドカップ決勝戦のフランス対クロアチア戦でした。ガイドの方曰く、フランスが優勝となったら、その影響でパリは大混乱になるとのこと。既にバスの車窓から街のカフェにたくさんの人達が、サッカーの試合を観に集まっている様子がうかがえました。バスがひどい渋滞や喧噪に巻き込まれてしまうのではと不安でしたが、4対2でフランスが優勝した、その瞬間にバスはホテルに到着。アクシデントもなく、無事に到着することができました。暫くすると、20年ぶりの優勝に沸く市民の方が、車のクラクションを鳴らしながら勝利を祝っている光景を見ることができ、祝賀ムードを体験することができました。その後、ホテルのレストランで最後の夕食



ヴィランドリー城で記念写真

となりました。馬場団長からの挨拶の後、全員無事に楽しく行程をこなしたこと、みなさんとの出会いに乾杯をしました。また、この日は副団長の川染先生のお誕生日、サプライズでのお祝いとなりました。小さい花火のような、想像以上のケーキの火の勢いに、ヒヤヒヤしながらみなさんと一緒にお祝いしました。最終日だったのもあり、どのテーブルも思い出話に花が咲いていました。8日間に渡り、観光や公式行事など、過密日程でしたが、その分体験したこと、感じたことも多かったように思います。



お誕生日サプライズ

7月16日(月) 【パリ-アムステルダム-関西空港】

私達を笑顔で見送ってくれるかのように本日も快晴。朝食後、パリのホテルを出発し、シャルル・ド・ゴール空港へ。チェックインを済ませ、フライトまでの時間を買物などしながら過ごしました。持っているユーロを全て使い果たすべく、免税店やフランスブランドの店などで財布とにらめっこ。その後、経由先のアムステルダム・スキポール空港を経て関西空港へ向かいました。

7月17日(火) 【関西空港-高松】

早朝、関西空港へ到着。さっそく日本の蒸し暑い天気洗礼を受け、帰国となりました。関西空港から専用バスで一路高松へ。数日とはいえ、車窓から見ていたフランスの田園風景が馴染みのある風景に変わっていることに、少しだけ違和感を覚えながら帰路に就きました。今回、市民訪問団で、姉妹都市であるトゥール市に訪問し、現地の文化や伝統を見て、聞いて、食して認識を深められたことは、今後の未永い交流のために、とても意義深い体験だったと思います。

感想文
(五十音順)

熟成続く市民交流に

市民親善訪問団 団長
高松市国際交流協会
理事 馬場 朋美

高松市・トゥール市姉妹都市提携 30 周年記念市民親善訪問団一行 30 名は、7 月 10 日から 6 泊 8 日の日程で、姉妹都市であるフランス・トゥール市他ストラスブール、パリへの訪問を終え、7 月 17 日に無事帰国しました。

今回の訪問団は、トゥール市からの招待を受け訪問する市長を団長とする公式訪問団とともに、姉妹都市提携 30 周年を祝し、市民交流をより一層促進するためにトゥール市を訪問することを目的に一般公募したものです。30 名という募集人数に、当初は集まるのだろうかと危惧していたのですが、予想に反し上々の応募状況で定員丁度の 30 名に。提携 30 周年にちなんでの 30 名の団員でした。

7 月という季節は、フランスは、自国民はこぞってバカンスに、外国人にとっては観光シーズンに突入といった時期です。さらに、訪問中の 7 月 14 日はフランス革命の記念日ということで、混雑と若干のテロへの危惧を感じながらのスタートでした。



前半の 3 日間はストラスブールを始めとした観光に、後半の 3 日間をトゥール市での公式行事に公式訪問団とともに参加すること、合わせて現地で市民交流のワークショップを実施するというスケジュールでした。

夏のヨーロッパは昼が長く、夜暗くなるのは大体 10 時を過ぎてから。夕食は 8 時から 9 時くらいのスタートが普通なのです。だからと言って、朝が遅いわけではなく、連日朝早くから夜遅くまでの強行軍の日程でしたが、全日程よい天気恵まれ、満足のいく旅でした。

本来の目的である公式日程は、7 月 13 日の、トゥール市バルザック島でのブドウ苗木の植樹からスタートしたのですが、外気温は 30 度を超え、直射日光が降り注ぐ中での植樹となりました。全体に和気あいの雰囲気の中進行し、私も苗木に水を遣らせていただきました。植樹後に振る舞われたワインはとても美味しく、それまでの暑さも吹き飛びました。

私にとってのメインの役割は、その夜トゥール市役所の婚礼の間で開催される、高松市・トゥール市姉妹都市提携 30 周年記念の夕食会で、訪問団団長としてごあいさつをさせていただき、記念品をブシェトゥール市長に贈呈することでした。フランス語での進行のため、ちょっと戸惑ってしまう部分もありましたが、どうにか無事に役割を果たすことができ、ほっとしました。

しかし、フランスでは、冷房がまだまだ一般的でないためか、会場は窓から降り注ぐ太陽の光で結構な暑さでした。ごあいさつ前の緊張も相まって、しっかり汗をかいてしまいました。

トゥール最終日のヴィランドリー城でのワークショップ。まさにこれが市民交流という感じで、主催した我々団員と参加してくれた現地の方、観光客の方たちとの間のそこそこで、笑顔と会話が生まれていました。次のパリへの移動時間の都合で、楽しく過ごした時間もあっという間終わってしまい、後ろ髪引かれる思いで別れを告げました。

トゥール市においては、たださえ革命記念日等で慌しかったであろうと思うのに、公式訪問団に加え、我々 30 名という大所帯の市民訪問団を受け入れていただき、お心遣いいただきましたことに団員一同感謝し、植樹のあのブドウが美味しいワインになる頃に、もう一度訪れたいと思ったのです。

トゥール市関係者の皆様と訪問団団員皆様のご理解とご協力に感謝し、ワインが熟成するように、この交流が 40 年 50 年と深く味わいを増しながら、未永く続くことを期待するものです。

M e r c i .

高松市・トゥール市姉妹都市提携 30 周年記念

市民親善訪問団 8 日間の旅に参加して

市民親善訪問団 副団長

香川日仏協会

会長 川染 節江

旅の楽しみには、準備すること、現地体験すること、写真などを見て思い出に浸る、3 通りがあり数か月前の慌ただしい 8 日間が頭に浮かびます。旅の喜びは、日常追われている仕事から解放されて非日常的な未知の空間を体験できることだと思っています。今回の前半の世界遺産観光と、後半のトゥール市における交流行事について振り返ってみます。現地ガイドさんは日本語が流暢な上に、日本についての知識も豊富な方で、話も楽しく、盛り上がる場面が多々ありました。また高松市の国際交流員であったソフィーさんやジュリアさんほか、高松市に縁のあった方々とも再会できたことは、訪問団にとって貴重な体験になったことと思っています。

ドイツ国境に近いストラスブルは、川に囲まれた旧市街と荘厳なノートルダム大聖堂があり、徒歩で散策しました。川に面した木組みの家々はドイツ文化の影響を残しており、花々の美しさと共に、まるで中世の街に迷い込んだような、ゆったりとした空間を味わいました。ノートルダム大聖堂と言えば、パリにだけあると思っていたのは大きな誤りだということを知り、同じことに気付いた方もいました。大聖堂から移された彫刻や金銀細工などを展示したルーブル・ノートルダム博物館もあるようですが、なにしろ半日では不十分、再度訪ねたい街でした。ストラスブルから TGV でパリへ。大きなスーツケースを持ってバタバタとなりながら出発。

パリでは凱旋門へ行く途中、フランス革命記念日の式典準備で観客のための椅子等が設備されており、テレビのニュースで放送されるシーンが想像できました。夜はセーヌ河のディナークルーズ。翌日は日帰りのモンサンミッシェル観光でフランスの世界遺産を身近に見ることができ大満足でした。

トゥール市との交流行事に感激、そして感謝。私は 10 年前の 20 周年記念市民親善訪問団にも参加していましたので、再びトゥール市役所の赤い絨毯のある入り口に着いた時には万感の思いでした。記念夕食会では、高松市・トゥール市の両市からの記念品贈呈式が行われました。私は香川日仏協会の会長を務めており、副団長として香川県産のお米「おいでまい」のロゴマークが入った T シャツなど、ささやかなプレゼントを市長に差し上げました。トゥール市からはたくさんの特産品などのお土産を頂き、美食の国フランスのあたたかいおもてなしの心が伝わってきて感謝、感謝でした。



トゥール市役所前での軍事パレードを見学したり、ヴィランドリー城での茶道、折り紙、調香体験、尺八に合わせた日本の歌の披露などはフランス以外の国からの参加者もあり、それぞれに日本文化を発信できたワークショップでした。

このようにして、訪問団全員が日仏交流 160 周年の節目に 30 周年記念事業に参加し、日本とフランスのさらなる交流を目指していこうと念じつつ筆を置きます。

調香で国際交流

岩佐 一史

私は仕事柄よく日本の古い寺院や、中国・ベトナムに行くため、古い遺跡や建造物を見る機会は頻繁にありましたが、今回の市民親善訪問団では様々な違った体験ができました。フランスの建造物の全てがこれまでに見たことのないような素晴らしいものであり、独特の歴史を感じられたことに驚愕しました。



トゥール市役所での記念夕食会で、お香を贈与した際にトゥール市長とお話しをさせて頂きましたが、フランスにも伝統文化を伝える組合があり、その組合への参加条件が200年以上続く伝統技術を継承している企業のみというお話には、200年という年数にフランスの歴史の深さを感じました。

また、ヴィランドリー城でのお香ワークショップで体感できたことは、フランス人の感性が素晴らしいことや、日本風の香りの方が好まれたことでした。お香の感想を聞くと、香りを季節で表現される方もいて非常に感性が豊かだと感じました。また、当初はフランス人の香りの好みが多かった為、フランス向けの薔薇の香りや、日本風の桜の香りも用意していましたが、意外に日本の桜の香りの方が好まれていました。

今回の御縁から、2019年に開催されるトゥール市の「Japan Tours Festival」に呼んでいただけることになり、今後もトゥール市で日本の和の香り文化を発信できるよう尽力いたします。

今後もこのような国際交流行事があれば是非参加したいと思います。

フランス “青い空の下思い出”

大塚 友子

高松市・トゥール市姉妹都市提携30周年記念市民親善訪問団の一員として、初めてのフランスへたくさんの思いを抱き行ってきました。美食やワイン、芸術の国フランスへ旅立ち、最初に訪れたのはストラズブル旧市街でした。ドイツ国境に接するアルザス地方の中心地、イル川の河畔を歩き、漆喰の壁に黒い木組みが縦縞模様にある、中世の鞣革工房の名残を見ることができ、街並みは美しく、まるで運河の街の様でした。窓際には花々が飾られメルヘンの世界でした。パリへ移動の為、TGVに乗車、発車前に電気系統の不具合で車内の電気がついたり、消えたりしていました。私もちょっとしたハプニングを経験（それは秘密）しましたが、無事にパリに到着しました。シャンゼ



リゼ大通りの西の端、シャルル・ド・ゴール広場に建つ、皇帝ナポレオンの命によって建てられた、パリを象徴する「凱旋門」は圧巻でした。夕方からはセーヌ河を遊覧しながらのディナー。ガラス越しに眺めるコンコルド広場、国立図書館、そして雄大な橋をくぐり、夕暮れになると、エッフェル塔のオレンジ色のライトアップが水面にキラキラと輝いていて思わず感激の声が出て、身も心もリセットされた光景でした。トゥール市での公式行事ではロワールの古城のひとつ、ヴィランドリー城と庭園を見学し

ました。城内の部屋に置かれた工芸品は洗練された歴史、文化を感じ、屋上から見る庭園は構図調和が素晴らしく、目を喜ばせてくれました。午後からの交流ワークショップは人と人の出会いの場でした。尺八演奏や日本の歌のコーラスをバックに茶道、調香、折り紙のワークショップが開催され、どれも人気で、貴重な交流の場となっていました。みなさんの笑顔が印象的でした。古きを重んじ、新しきを取り入れ、大切に育てるフランスの国民性を知ることができ、いつの間にか美の世界に引き込まれ、時間を忘れさせてくれるフランスの旅となりました。ご一緒出来た訪問団の皆さま、本当に楽しい時間をありがとうございました。

思い出深いフランス 8 日間の旅

岡 正敏

7月10日に関空を出発し、アムステルダム経由でアルザスのストラスブールに到着、世界遺産に指定されているストラスブールの旧市街の観光から始まりました。ストラスブールが、ドイツとの国境に位置していることもあり、地名のStrasbourgの綴りがいかにもドイツ語らしく、また木組みの家が建ち並ぶ街の雰囲気はドイツ文化の影響を強く受けているということでした。

続いて世界遺産モンサンミッシェルの観光では、海に立つその幻想的な姿に圧倒されました。この修道院は、13世紀にほぼ現在の姿となり、その後、英仏戦争時は難攻不落の城塞、フランス革命時には監獄と、その役割の変遷を繰り返したそうです。千年前後も前に、こんな建築の技術があったのかと驚くばかりでした。

いよいよトゥール市訪問です。パリからトゥール市へ専用バスで移動、美しく整備された田園風景が続き、やがて次々と古城が目に入りました。トゥール市を中心としたロワール地方になぜこんなに多くの古城が建っているのか、バスのガイドさんの説明で納得しました。15世紀英仏戦争で首都パリを逃れたシャルル国王は、戦争終結後もこの地に留まり、トゥールは80年間フランスの首都となり、王家、貴族等が次々と城を建てていったとのこと。周囲を多くの国に挟まれたフランスが他国からの侵略や戦争を繰り返し、また国内にあってはフランス革命を経験するなど、多くの困難を克服しながら現在に至っているその歴史の奥深さに思いをいたしながら見聞しました。何百年も前の建物を大切に残し、現在の建物もこれから100年経っても変わらない、と言っていました。

公式行事である記念夕食会に参加し、中世の雰囲気の残る豪壮で歴史を感じさせる石造りの市役所で両市長様の祝辞の交換が行われました。翌日14日はフランスの建国記念日にあたる革命記念の日であり、市役所前の通りで軍事パレードが行われ、それを見学することが出来ました。



また3日目には古城の1つヴィランドリー城の一角を利用して、交流ワークショップが行われ、お城を訪れる観光客にお香や折り紙等の日本文化の紹介が行われました。私も訪問団の人たちのご協力を頂きながら、尺八を演奏して、日本の歌等の紹介を行いました。フランス人の小学生が私たちと一緒にフランス民謡「きらきら星」を、英語の歌詞ではありましたが、尺八に合わせて共に歌ったのも思い出深いことです。

ちょうどフランス滞在中にはサッカーワールドカップ準決勝、決勝戦が行われ、フランスチームが優勝し、国民が熱狂している雰囲気が味わえたことも忘れられない貴重な瞬間でした。

高松市国際交流協会、高松市、参加団員の方々、そしてトゥール市の関係の皆様方のご尽力により有意義な親善訪問を経験することが出来、大変有難く、厚く感謝申し上げます。

姉妹都市トゥール訪問とストラスブール、欲張ってモンサンミシェル 進化を続けるトラム

岡田 元一

姉妹都市提携 30 周年で再びフランスを訪問する機会を得た。実に 27 年ぶりの訪問だ。

アムステルダムからストラスブールへ、上空から見ると平坦な土地に住居がまとまって整然と町を形成している。太陽光発電施設はまったく見当たらない。

ドイツに近い街ストラスブールは、以前から注目していた都市。1994 年開業したトラムは、環境を重視した都市計画のモデルケースとして、世界各国の注目を集めている。古い街並みに近代的なデザインのトラムが走り、今ではライン川を挟んで対岸ドイツのケールまで延伸している。

そしてノートルダム大聖堂。赤砂岩で美しく華麗な茶褐色の大聖堂。高さは 142 m。何でも経験すべしと同じ訪問団員の大地くんとともに、展望台まで 332 段の螺旋階段を上った。日頃の鍛錬のおかげで余裕。ここからストラスブールの街並みを一望、素晴らしい眺望だ。絵本のようなアルザスの街並み。近代的なトラムと古い街並みがマッチしたストラスブールは全く素晴らしい。



ストラスブール駅は、巨大なガラスの天蓋で目を引く見事なデザイン。ここから TGV でパリへ。出発の 20 分前にやっとホームの表示が出て、大急ぎで 30 人もの団体が大きな荷物を引いてあちこち彷徨った。添乗員の湯之上さんは、皆さんのトランク収納に汗だく。やっと席に着いたが、出発定刻は大きく遅延するし、走行中もバチッと音がしたかと思うと、きな臭い匂いもしてスピードが落ちる。それでも 3 時間ほどでパリ東駅に到着。ここでも大汗を掻いてトランクを運び出す。

パリでは、凱旋門付近を見学の後、セーヌ川ディナークルーズ。川沿いにはエッフェル塔、オルセー美術館、ルーブル美術館、ノートルダム大聖堂など有名スポット。みごとな観光資源で船の雰囲気もちょっとアトラティブで期待以上のクルーズ、お勧めのツアーですね。

パリからモンサンミシェルへのバス旅行。高松－名古屋間と同じ距離をバスで走ると聞いて、うひゃ～！ 啞然とする。長距離のためダブルドライバーでも途中 45 分休憩するなど、安全確保が徹底されている。その間エンジンストップで冷房も効かない。モンサンミシェルは、潮の満ち引きが 15 m もある水辺に佇む神秘的な修道院。石の階段は参拝客で轟く金比羅さんの正月を想起させる。

トゥールでは市庁舎の婚礼の間での夕食会。失礼にならないようドレスコードで参加。翌日もカクテルパーティでご馳走になった。バルザック島では、大西市長が葡萄苗木の記念植樹。そしてかの有名なダ・ヴィンチが最後の 3 年間居住したクロ・リュセ城、アンボワーズ城など見学。

フランス革命記念日の軍事パレードは、3 機の戦闘機が飛来してスタート。最前列の来賓席にバイヨー女史（27 年前当時の助役）と思われる美しい横顔を見て懐かしい思いがした。

ここトゥールでもつい最近、5 年前からトラムを走らせている。近未来的なデザインにこだわった車輦は都心の景観を守るため架線レス集電を採用、最新式の LRT だ。フランスのトラムは目覚ましい進化が続く。フランスは消費税先進国らしい。殆どが税率 20% だが、これより低い複数税率が導入されている。外国観光客に対する免税措置は日本ほど優遇されていない。ウェイターたちがよく手や足を滑らせて食器を割り破壊する。このツアー中 3 回遭遇した。これによって新しいお皿に新陳代謝ができています。

アムステルダム・スキポール空港では、次のストラズブルへの乗り換えでボディチェック。検査員はフレンドリーなおちよくりオヤジ、最後は握手して OK。空港内に美術館があることを失念していた。残念！行くべきだった。トラベルはトラブル、今回もさまざまな愉快的出来事があった。旅の貴重な思い出となった。

最後に、今回参加されました皆様方には格別お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

トゥール市の訪問を終えて

岡田 真以子

私たち訪問団は、約 3 日間高松市と姉妹都市であるトゥール市を視察してきました。トゥール市では、トゥール市役所、プリュムロー広場、サン・ガシアン大聖堂、ヴィランドリー城を主に見て回りました。

プリュムロー広場では、木造の家々が建ち並んでおり、その周囲にあるカフェは多くの人々がゆったりと落ち着いた雰囲気、自由な時間を過ごしていました。そこで目にした風景、建築物、人々が日常に溶け込んでいる様子は日本とは違った時間の過ごし方でした。トゥール市役所においても、外観の彫刻はとても印象的でした。外観だけでなく内装も石造りの階段、豪華な装飾が施されていました。ここで高松市とトゥール市提携 30 周年記念の夕食会があり、フランスで活躍されている日本人の方とお話をする機会があり、フランスでの生活、暮らしなど貴重な経験を聞くことができました。また現地の人との交流だけでなく一緒に同行した訪問



団の方々との交流も深めることができました。7月14日はフランス革命の記念日で、軍事パレードを目の前で見ることができ、もう二度と体験することができない貴重な時間を過ごせました。最終日に訪れたヴィランドリー城では、城主の方に城内、庭園を案内していただき、その後交流ワークショップを開催しました。ヴィランドリー城は16世紀唯一、庭も残っている庭園です。城内の建築様式、庭園を見てまわりました。城内から見る庭園と、庭園から見る庭園の景色は言葉で表現することが難しく、日本の庭園とはまた違った良さがありました。交流ワークショップはお香、折り紙、尺八、茶道など日本伝統文化を現地の方へ紹介するもので、私自身も日本の伝統文化について改めて勉強させていただきたい機会となりました。トゥール市との交流を通して人だけでなく、フランスの文化、日常、生活について学ぶことができた3日間であり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

ストラズブルの町を歩いて

神原 良次

最初に訪れたストラズブルは、ガイドの説明によると過去の度重なる戦争によってドイツに所属したりフランスに所属したりを繰り返したようです。今はフランスですが、木組みの家などドイツ文化の影響を多く残しているアルザス地方を代表する町です。グランド・イルとしてユネスコの世界遺産に登録されたイル川の中洲にある旧市街の地区を徒歩で廻って見物しました。建造物だけでなく、市内の区域全体がユネスコの世界遺産に登録されたのはストラズブルが初めてだそうです。

16世紀の面影を残したコロンバージュ（Colombages、木骨造）の家並みは木造建築で古くからあるものを日常生活に使用しながら保存されているのに驚きました。町を歩くと多くの運河があり、家の出窓や庭などいたるところに花が溢れていて、町全体が絵画のようで、その美しさに感動しました。



尖塔が町を見下ろすようなノートルダム大聖堂はゴシック様式の大傑作で、パリのノートルダム大聖堂に次いで観光客が多いそうです。1176年に着工、1439年に完成し約260年もの間、作り続けたのです。そのため、建築様式としてはロマネスク様式で始まり、途中からゴシック様式に大変更して完成に至っており、両方の様式が混在する独特の大聖堂です。外壁にヴォージュ県産出の砂岩を使用したため、建物全体が赤みを帯びていて他の大聖堂とはかなり異なった外観となっています。

後日訪問した姉妹都市であるトゥール市のプリムロー広場でも、歴史ある伝統的なコロンバージュの家屋がそのまま残されている地域があり、いい雰囲気味わえました。

これまでフランスの建築といえば、教会・宮殿・古城等に興味を感じ、一般の住宅等をゆっくり見る機会があまりなかったので、今回の旅行では別の楽しみが見つかってよかったです。

トゥールの思い出

四角 整子



「フランスに行こうよ、高松市の姉妹都市トゥール！」電話の向こうで明るい声がしました。「無理、無理！時間も費用も」私の最初の返事。でも次に聞いた言葉が「折り紙ができるよ」でした。

高松市の姉妹都市であるトゥール市で日本文化の交流ワークショップを開催するにあたり、岩佐佛喜堂の岩佐さんが調香のワークショップを、私はそのお香を入れる「折り紙の香入れ」の作り方や兜などのその他の折り紙指導のワークショップをするという企画でした。

交流ワークショップが開かれたヴィランドリー城は、歴代のフランス王が滞在したロワール川流域にあり、最後に建てられた城と言われています。広いテラスからはルネサンス様式の素晴らしい庭園が眼下に見渡せました。中庭の様な広々としたテラスでは岡先生の尺八演奏が行われ、お隣の岩佐さんの調香ワークショップが大盛況で人だかりができていました。

折り紙で折った和紙のお香入れに、自分の調香したお香を入れて嬉しそうに記念写真を撮り合うカップルや、伝承の兜を折って頭に被って微笑む親子連れなど、こんなに喜んで頂けるなんて最高！！とても素晴らしい経験でした。ワークショップを手伝って下さった訪問団の方々ありがとうございました。とても楽しい旅でした。帰国後も楽しい交流が続いています。

ツール市への訪問団に参加して

大樂 沙耶花

私はこの夏、高松市・ツール市姉妹都市提携 30 周年記念市民訪問団に参加しました。フランスで過ごした 8 日間では、一瞬一瞬学ぶ事があり、多くの貴重な体験をさせていただきました。その体験の中で私が発見した事を書いていこうと思います。

まず 1 つ目に「フランスとの共通点」を見つけました。フランスには多くのお城や教会が建てられていました。日本にもお城や神社や寺が多く建てられています。フランス人と日本人を比較すると、話す言語が違う、食べる物が違うといった相違点がありますが、共通点を見つけることで同じ考え方をしていると気付きました。生活文化が違うにも関わらず、同じ考えを持っているところもあると分かったと、フランスについて更に深く知りたいと思いました。また、フランスだけではなく、他国について知る事で、私の夢である「世界の一人でも多くの方を救いたい」に一歩近づけるはずでした。



2 つ目に、フランスで参加した行事の中で、特に交流ワークショップでの出来事は私の視野を大いに広げてくれました。ワークショップでは現地フランス人の方だけでなく、中国の方など他国の方々も日本の文化を楽しんでいただけていました。言葉の壁もなく、その光景は平和そのものでした。お互いの国の素晴らしい文化を共有する事は、平和な世界を作る事に繋がると感じました。

また滞在中は、様々な年代の訪問団員の方々ともお話しさせていただき、自分の世界が広がりました。

このフランスでの異文化体験を通じて、日本の政治や経済について増々興味を持つことができました。世界の一人でも多くの方を助けたいという気持ちから「助けるんだ」という強い意志に変わりました。

フランス式 “こんぴらさん”

高山 桂一

スペインの英雄「エル・シッド」のヘストンは恰好よかった。高校時代に観た映画だ。馬に跨り堂々と海岸を駆ける。後ろの城は、なぜか、モンサンミッシェルだと思い込んだ。一步踏み入れた島の参道は、要塞然とした外観の物々しさと打って変わって、「なんや、これ、こんぴらさんやないか」。石段に並ぶ土産物屋や客引き、喧噪、かったるい空気…こんぴらに無いのは有料トイレだけや。



島では修道院の歴史こそ詳しく聞かされたが、石段の説明が無かったので段数がわからない。七八六（なやむ）は縁起が悪いと、後から下りの一段を加えた我らが、こんぴら式気遣いとはえらい違いだ。当方は門前町に付き物の歌舞伎や見世物はじめ下世話な歴史、風俗に事欠かない。うどんもある。この島にも何か、ウェルカム・イベントがあったやろ？と聞いたら、「おいしいオムレツなら…」と店のマダム。なんせ、こちらは十世紀以来、一度もイギリスの占領を許さなかった、誇り高きカソリックの歴史と伝統の巡礼の地なのだ。

島の石段は、日本人観光客のメールに「二百八十段」というのが

一つ見つかった。旅行代理店に調べてもらっているところだ。ちなみに、前出の映画に出てきた城は、スペインの地中海に面したペニスコラ城だという。圧倒的に、モンサンミッシェルが格好いい！

1 日目のストラスブール

東海 未子

一番に何を挙げるかが難しく、旅での出会いは私から日常の全てを開放して、思い出は幸せに満ちたものになります。異国の空の下、一足を踏み出すと視野の向こうは見たことのない風景が待っていました。ユネスコ世界遺産のストラスブールの街では本当に素晴らしいという言葉に尽きない建物や木々が次々に目に入りました。花達の色鮮やかなパレードや石畳の道に感激しました。ちょうどその日はワールドカップ準決勝が開催され、夕食で訪れたレストランではテレビを見ながら賑やかにフランス人が飲んだり、応援したり、サッカーで盛り上がっていました。その夜はフランスが準優勝、それを祝う夜通しの車のクラクションで賑やかでした。これも外国ならではの体験でした。あれから月日が経ちましたが、家の中はフランスの思い出の写真や絵葉書で埋まっています。



国際交流 – ころの交流 –

中村 和子

友人と共に参加した姉妹都市、トゥール市訪問旅行。日程表を見ると、観光と公式行事日程が半分半分くらい、観光を主としたい私には少し物足りなさを感じながらの参加でした。しかしながら、そんな自分を反省させられた素晴らしい旅行となりました。耳慣れない国際交流、姉妹都市。介護の仕事に明け暮れていた私にはどのようなことをされているのか分からなかったのですが、今回の旅行を通じて少し理解でき、その大切さを痛感した次第です。特にそれを感じたのは、玉藻公園と歴史的庭園連携協定しているヴィランドリー城での交流ワークショップでのことです。城主様の心のこもったご挨拶や庭園散策をしながらのご説明もさることながら、その後のワークショップにおけるトゥール市民との交流が素晴らしい体験でした。私は折り紙をお手伝いしたのですが、子供が小さな手で大きな折り紙をたどどしく折っていく様を見つめるご両親や、出来上がると大喜びの子供たち、折り紙の兜を被るとお父さんがカメラでパチリ、と日本と同じ光景が見られました。隣の調香ワークショップでは、お香の香りにうっとりされているご婦人、またそ



の隣では尺八の演奏、私も大声で歌ったところ現地市民の方から沢山の拍手を頂き、大変光栄でした。日本の文化を世界に広めようと生き生きと活躍されている高松市民の人達や、その文化を共に楽しんで下さるトゥール市民の人達の姿を微笑ましく感じました。また、セーヌ河遊覧の際にも周りの夜景を眺めながらディナーを楽しみつつ、一緒に乗船したイタリアの人、フランスの人、国境を越えて共に音楽にのって私達と踊ったり、手拍子や三三七拍子をして盛り上がりました。またトゥール

市での軍事パレード参加では、わざわざ席を設けてくださるトゥール市の心遣い、記念夕食会でも心を尽くされたおもてなし等、垣根のない交流ができたと思います。観光もさることながら、この度の旅行では心温まる姉妹都市の国際交流を実感した、有意義な旅でした。ありがとうございました。

高松市・トゥール姉妹都市提携 30 周年記念市民訪問団記

松野 誠寛

7月10日(火)から17日(火)まで、フランスへ行きました。主な目的は、高松市とトゥール市姉妹都市提携30周年記念イベントに参加することですが、私はモンサンミッシェル観光が、目当てです。欧米の何カ所かは行ったことがあります、フランスは南仏エーゲ海クルージングだけ。また公式行事があるというのは、普段は立ち入れない場所へも見学が許されるのではと期待し、キャンセル待ちでしたが夫婦して申込みを入れました。

コースは関西空港から、オランダ航空 868 便でアムステルダムへ入り(約 11 時間)、乗り継いでフランスのストラスブルヘ。ここは世界遺産の街です。フランスの北東部のドイツ国境の近くに位置するこの街には、ドイツとフランス両国の影響を受けた文化と建築が存在します。市民は自らを、「アルザス人」と呼びます。建築は独特の風情を醸しだし、ノートルダム大聖堂も迫力満点。イル川の水運が、この街の特徴でもあります。



気温 17 度、ここストラスブルヘから TGV (高速鉄道) でパリに入りますが、パリの気温は 26 度と発表されています。昨晩は、サッカーワールドカップ準決勝でフランスチームが勝利。クラクション鳴り止まず、大変な思いをしましたが、風が実に爽やか、落ち着いた雰囲気のある街です。

パリへは TGV で、2 時間 20 分。ただし日本の新幹線のように正確ではなく、発車ホームも直前まで分からず、何の説明もなく 30 分の遅れ。ここでは、当たり前のように。

3 日目、パリのホテルを 7 時半にバスで出て、西へ 350 km 約 4 時間半。大西洋に浮かぶ「モンサンミッシェル」へ行きます。海に屹立する幻想的な姿と、複雑な建築美。言うまでもない、フランス観光の人気スポット。1979 年に、世界遺産になっています。ここが第一目標地。

訪問目的トゥール市は、ロワール県の県都。面積 34.36 平方キロメートル、人口約 14 万人。大陸性気候で偏西風と北大西洋海流の影響により、年中温暖な気候。パリの南西に位置しています。市庁舎は外見もさることながら、内装も石造りの階段や豪華な装飾が施されていて、レセプションや結婚式などに使われている。

最後にトラム(低床路面電車)について。都市の景観を守るために架線レス集電を採用し、また銀色の近代的なデザインを採用しており、歴史ある街並みに溶け込んでいる。市民や観光客のまさに足(6.5 万人/日)になっています。高松中央通りに似合うと思うのだが。

高松市・トゥール市姉妹都市提携 30 周年記念市民訪問団に参加！

矢嶋 静子

憧れのフランス旅行が 30 周年記念市民訪問団とご一緒出来るとは最高に嬉しい。皆さんについて行けるかと不安ながらもバスで関西国際空港へ。オランダ、アムステルダム・スキポール空港を経由し、ストラスブールへ。初日から観光の説明を聞き逃さないように、ガイドさんの横に付いて録音しました。ユネスコ世界遺産であるパリの凱旋門を見学、セーヌ河の遊覧船で歌を聞きながらのディナー、日が暮れかけた時の風景に感動。楽しい雰囲気や船上の人々が一体になった感じがして、私も自然に溶け込んでいった感じがしました。

トゥール市に移動し、バルザック島での葡萄の苗木の記念植樹、高松市長他、公式訪問団と共に乾杯。とても暑い日だったので、「暑さで体が溶けるかと思った」との声に皆で大笑い。

その後トゥール市役所にある婚礼の間にて記念夕食会。公式の席に参加させていただいて感じたことは、30 年間の年月の交流の成果が今ここに集結しているのだと思いました。

その翌日はフランス革命記念日のため、ジャン・ジョレス広場では軍事パレードが行われました。壮大なパレードが目の前で見学でき、感動的でした。

トゥール市での滞在最終日、ヴィランドリー城を訪問、城主自らのご案内下さり、上から見下ろす庭園の美しさは格別でした。城内で昼食後、交流ワークショップへ参加し、お茶のお点前を伝授したり、尺八演奏では現地のお子さんを手招きで誘って一緒に何曲も日本の歌を楽しく歌いました。交流の一役を負うことが出来たかな？こんな勇気がどこから湧いてきたのだろう。

今もあの折にお世話になった優しい人達が目に焼き付いて離れません。皆さま、色々お世話になりありがとうございました。



